

しあわせおっばい通信

岐阜県総合医療センター 母乳育児推進委員会(薬剤部)

Vol.55 冬号



～ 妊娠とワクチンについて ～



【妊娠と感染症】

妊婦に対するワクチン接種の目的は、妊婦が感染すると非妊婦に比べ重症化しやすい感染症や、妊婦が感染することにより胎児に悪影響が生じる感染症、また乳児が感染すると重症化しやすい感染症を予防することです。

妊娠中に感染すると母体が重症化したり、胎児が感染し、流産・早産のリスクになる感染症がいくつかあります。これらの中には、ワクチンで予防できる感染症があり、妊娠希望の女性はあらかじめそれら感染症に対する免疫をつけておくことが大切です。

感染症	ワクチン種類	妊娠中の罹患による胎児の奇形	妊娠中の罹患による母体への影響	その他
風疹	生ワクチン	先天性風疹症候群		成人の約 15%が不顕性感染
麻疹		可能性は低い	重症化しやすい	
水痘		先天性水痘症候群	重症化しやすい	出生児が罹患すると重篤化リスク
おたふく		可能性は低い		子供/大人ともに難聴などの合併症
インフルエンザ	不活化ワクチン	可能性は低い	重症化しやすい	
COVID-19	mRNA ワクチン等	奇形の可能性は低い	重症化しやすい (特に妊娠後期)	

[生ワクチン]

妊娠中に生ワクチンは接種できません。

生ワクチンで予防できる感染症は、妊娠前に免疫をつけておく必要があります。母体が事前に免疫をつけておくことは、生まれた乳児の感染または重症化を予防することにもつながります。接種時期・必要性についてはかかりつけ医師とご相談下さい。

[不活化ワクチン・mRNAワクチン]

妊娠中でも接種可能です。

インフルエンザワクチンについては流行期に妊娠中の場合は接種する事が推奨されています。流行時期や妊娠週数との兼ね合いもあるため、接種時期についてはかかりつけ医とご相談下さい。

【RS ウイルス感染症とワクチンについて】

RS ウイルス感染症は RS ウイルスの接触・飛沫感染による呼吸器感染症です。2歳までにほとんどの小児が初感染します。以前は冬に流行しましたが、最近は夏～冬にかけて断続的に流行がみられています。乳幼児では多呼吸・喘鳴・チアノーゼを引き起こしやすく、特に生後6ヶ月未満で感染すると重症化しやすい事が示されています。重症化リスクの高い児に対しては、シナジス筋注液(RS ウイルスヒト化モノクローナル抗体)の接種を行い感染を予防していました。

今回、新生児および乳児における RS ウイルス感染症の予防を目的に、妊婦へのアブリスボ筋注用(不活化ワクチン)の接種が可能となりました。母体内で RS ウイルスに対する抗体を産生し、その抗体が胎盤を通じて母体から胎児へ移行することで、乳児をウイルスから守るとされています。接種希望の方は主治医とご相談下さい。

